

2025 年 7 月 1 日

ウェザーニューズ、「ゲリラ雷雨」の予想発生回数を 47 都道府県別に発表

2025 年のゲリラ雷雨は約 7.8 万回予想 8 月中旬がピーク

～ゲリラ雷雨予測本部を発足 ライブカメラに AI 画像判定技術を新規導入し予測精度向上を目指す～

株式会社ウェザーニューズ(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:石橋 知博)は、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす「ゲリラ雷雨」(※1)に対し、事前対策への意識を高め被害軽減につなげるため、「ゲリラ雷雨傾向 2025」を発表しました。7～9 月のゲリラ雷雨は、全国でおよそ 78,000 回発生する予想です。昨年や過去 5 年平均と比べて概ね同程度となり、発生ピークは 8 月中旬となる見込みです。

当社の予報センターでは、ゲリラ雷雨が多発する 7～9 月の間、今年もゲリラ雷雨予測の専任チームを構築し、体制を強化して日本全国のゲリラ雷雨をモニタリング・予測します。今年は全国に 2,500 台を展開する小型ライブカメラ「ソラカメ」の映像に独自の AI 判定を導入しました。ウェザーニューズアプリのユーザーから届く雲や空の写真に加え、全国のライブカメラの映像から、AI がいち早くゲリラ雷雨の予兆を検出し、ゲリラ雷雨発生 30 分前までに「ゲリラ雷雨アラーム」をアプリで配信します。

毎年、突然の激しい雨やひょう、落雷などによる被害が全国各地で発生しています。ウェザーニューズでは、少しでも被害を減らすべく、継続的に情報を発信していきます。随時最新の雨情報をご確認ください。

ウェザーニューズウェブサイト「ゲリラ雷雨傾向 2025」

<https://weathernews.jp/news/202506/300156/>

◆ゲリラ雷雨発生傾向 2025

<発生回数:全国の総発生回数は約 7.8 万回>

2025 年 7～9 月のゲリラ雷雨は、全国でおよそ 78,000 回発生する予想です(図 1)。およそ 79,000 回発生した昨年と比較すると概ね同程度の発生回数となり、過去 5 年平均と比べてもほぼ同程度となる見込みです。北海道は 5,800 回前後、東京都は 1,100 回前後、愛知県は 1,500 回前後、大阪府は 450 回前後となる見込みです。

雨雲の発生は山沿いがメインとなりそうです。ただ、平野部(都市部)へも雨雲が流れ込んだり、直上で発生したりする場合があります。ゲリラ雷雨による短時間の激しい雨で、道路の冠水や河川の浸水、落雷による停電や交通機関が麻痺するなど、様々な影響や被害が懸念されます。

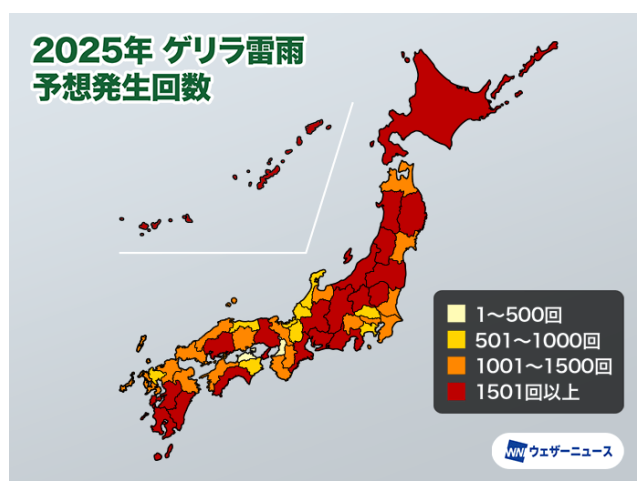


図 1. ゲリラ雷雨 予想発生回数

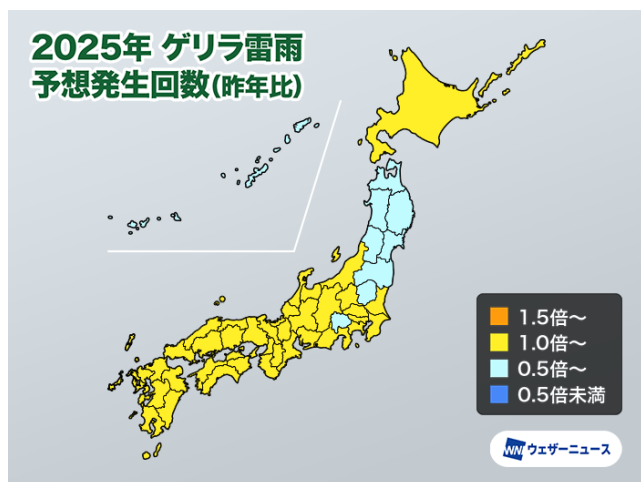


図 2. ゲリラ雷雨 予想発生回数(昨年比)

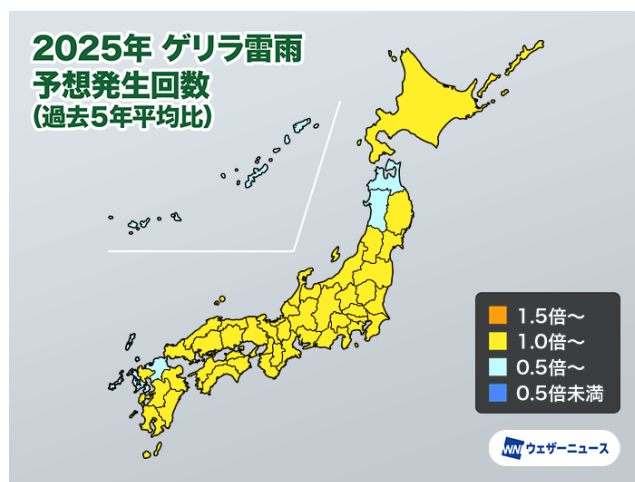


図 3. ゲリラ雷雨 予想発生回数(過去 5 年平均比)

<発生時期:発生ピークは 8 月中旬>

ゲリラ雷雨は、日中の気温上昇や上空の寒気、下層に湿った空気が流れ込むことで、大気の状態が不安定となり発生する現象です。今シーズンのゲリラ雷雨は、8 月中旬が発生のピークとなる予想です。

7 月後半から 8 月上旬にかけて、日本付近は太平洋高気圧とチベット高気圧に覆われて晴れる日が多くなる予想です。この時期は高気圧の勢力が強いため、雨雲の発生が抑えられる日が多いものの、気温が平年よりも高くなることで大気の状態が不安定となり、ゲリラ雷雨が発生する日があります。

特に 8 月中旬は一時的に高気圧の勢力が弱まり、湿った空気や上空の寒気が流れ込みやすくなります。このため各地でゲリラ雷雨が起きやすくなる見込みです。

9 月もゲリラ雷雨が発生する予想ですが、北日本を中心に秋雨前線の影響を受けるため、広域での雨に変わっていく見込みです。これにより、突発的かつ局地的なゲリラ雷雨の発生は徐々に減少していき、ゲリラ雷雨のシーズンも終息に向かう見通しです。

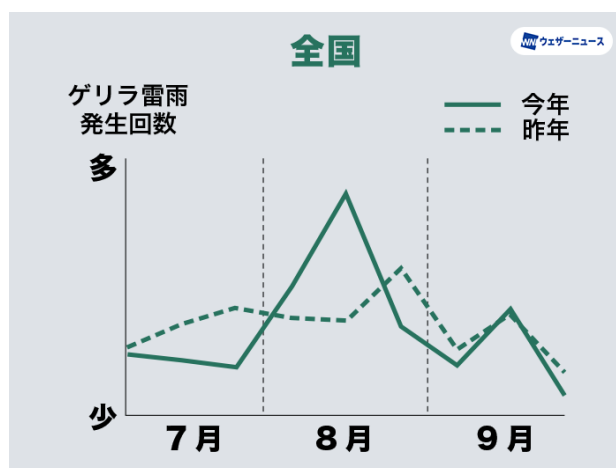


図 4. 7～9 月のゲリラ雷雨発生傾向

<要因:湿った空気と上空の寒気の影響で発生するパターン>

今シーズンは、太平洋高気圧とチベット高気圧に覆われる期間が長い予想です。高気圧の勢力が強くと広範囲でのゲリラ雷雨の発生が抑えられる日があるものの、晴れて気温が上がるため大気の状態は不安定になります。このため、局地的に積乱雲が発生・発達する見込みです。特に 8 月中旬には高気圧の勢力が弱まり、湿った空気の流れ込みや上空の寒気の影響を受けるため、このタイミングで全国的にゲリラ雷雨が発生しやすくなるとみています(図 5)。

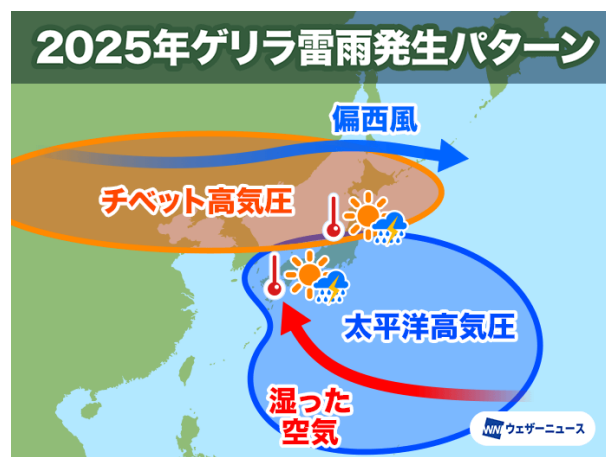


図 5. 2025 年ゲリラ雷雨発生パターン

※1 「ゲリラ雷雨」について

本プレスリリースでは、「局地的大雨」を指す言葉として「ゲリラ雷雨」という言葉を使用しています。

一般あるいはメディアでよく使用されている「ゲリラ豪雨」と同義です。

※2 「ゲリラ雷雨」発生回数の求め方

「ゲリラ雷雨」をもたらす雨雲・雷雲は“突発的”かつ“局地的”に発達するのが特徴で、予測が難しいとされてきました。

また、限られた数しか設置されていないアメダス(全国約 1,300 か所)では、全ての降雨を正確に観測することは困難です。

そこで当社では、スマホアプリ「ウェザーニュース」のユーザーから寄せられた“ザーザー”以上の降雨報告(※3)と、

その時の気象データの分析結果から、ユーザーがゲリラ雷雨と感じる雨の時間変化の基準値(表 1)を求め、

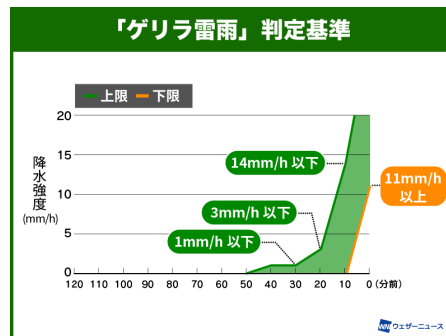
求めた基準値をもとに 10km 四方でゲリラ雷雨をカウントしています。

※3 降雨報告について

スマホアプリ「ウェザーニュース」を通し、“ポツポツ”、“パラパラ”、“サー”、“ザーザー”、“ゴオー”の 5 段階で報告されます。

時間(分前)	閾値
0	11mm/h 以上
10	14mm/h 以下
20	3mm/h 以下
30~40	1mm/h 以下
50~120	0mm/h 以下

表 1. 「ゲリラ雷雨」判定基準



◆2025 年のゲリラ雷雨予測強化シーズン開始

ウェザーニュースの予報センターでは、ゲリラ雷雨が多発する 7~9 月の間、今年もゲリラ雷雨予測の専任チームを構築し、体制を強化して日本全国のゲリラ雷雨をモニタリング・予測します。ゲリラ雷雨予測担当は、気温や風、水蒸気量などの気象データを解析することでゲリラ雷雨の発生リスクを予測します。そしてユーザーから届く雲や空の写真や動画、ライブカメラの映像から現地の状況を解析し、具体的な発生場所や時間を絞り込んで、ゲリラ雷雨発生のおよそ 30 分前までに「ゲリラ雷雨アラーム」をウェザーニュースアプリのユーザーに通知します。

今年は全国に 2,500 台を展開している小型ライブカメラ「ソラカメ」の映像に AI 判定を導入しました。ライブカメラ映像に AI 判定が加わることで、ゲリラ雷雨の原因となる積乱雲の発生・発達をいち早く検知し、ゲリラ雷雨予測の精度向上を目指します。



ゲリラ雷雨予測本部を発足

◆どこよりも詳細なゲリラ雷雨予測で事前の対策から避難、被害の軽減をサポート

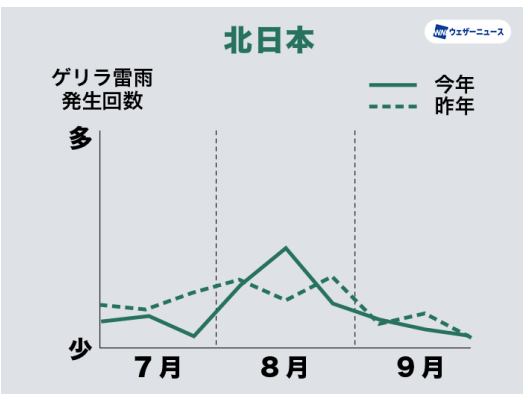
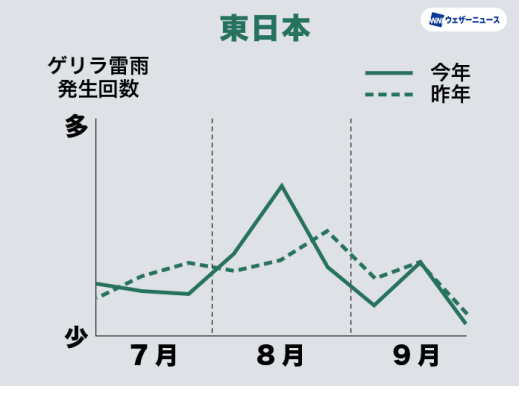
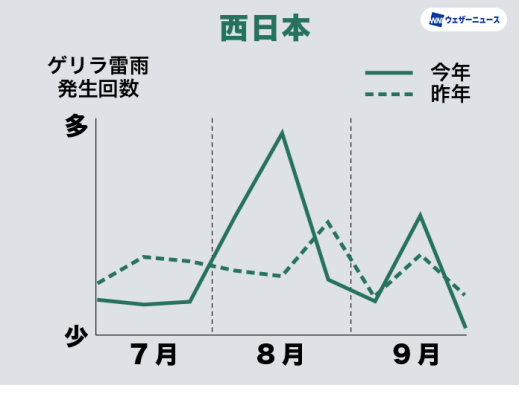
お天気アプリ「ウェザーニュース」は、『ゲリラ雷雨アラーム』や『ゲリラ雷雨レーダー』など、ゲリラ雷雨に特化した機能を搭載しており、ゲリラ雷雨の詳細情報をピンポイントで確認できます。

また、超高解像度の雨雲レーダーでは、250m 四方/5 分間隔で雨雲の動きを表示し、「どのくらい雨が強まるのか」「雨が弱まるのはいつか」が詳しくわかります。さらに、ゲリラ雷雨の際に心配な落雷についても「落雷レーダー」で 3 時間先までの落雷予測を確認することができます。



ゲリラ雷雨アラーム/ゲリラ雷雨レーダー/落雷レーダー

◆エリア別のゲリラ雷雨傾向

北 日 本	北日本のゲリラ雷雨の総発生回数は、約 17,000 回の予想です。約 18,000 回発生した昨年と比べると、およそ 0.9 倍で、昨年とほぼ同程度の発生となり、発生のピークは 8 月中旬の見込みです。 高気圧に覆われて雨雲の発生や発達を抑えられる日もありますが、日中の昇温などの影響で大気の状態が不安定となるため、ゲリラ雷雨としては山沿いを中心に発生する見込みです。 7 月中旬までは東北に梅雨前線が停滞し、本格的なゲリラ雷雨の季節は 7 月下旬からになるとみています。8 月は気温が上昇し、平年よりも気温は高くなるため、大気の状態が不安定となり、ゲリラ雷雨の発生回数は増加傾向となりそうです。9 月は低気圧や前線の影響を受ける日が増加し、ゲリラ雷雨というよりも広域の雨となる日が増える予想です。	
東 日 本	東日本のゲリラ雷雨の総発生回数は、約 27,000 回の予想です。約 26,000 回発生した昨年と比べると、ほぼ同程度の発生回数になると考えられます。発生のピークは 8 月中旬の見込みです。 主要地域の発生数も昨年と同程度の発生回数となり、東京都の発生回数は 1,100 回前後、愛知県は 1,500 回前後となる予想です。 7 月中旬にかけて梅雨前線の影響を受けるため、本格的なゲリラ雷雨の季節は 7 月下旬からとなる見込みです。8 月は高気圧に覆われて雨雲の発達が抑えられる日もありますが、気温が平年よりも高く、暖かく湿った空気や上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定になるとみています。特に 8 月中旬は高気圧が勢力を弱めるため、お盆の時期は天気の急変に十分ご注意ください。9 月になると低気圧や前線の影響を受ける日が増えて、ゲリラ雷雨というよりも広域の雨となる日が増える予想です。	
西 日 本	西日本のゲリラ雷雨の総発生回数は、約 30,000 回の予想です。約 27,000 回発生した昨年と比べると、およそ 1.1 倍で概ね同程度の発生回数となる見込みです。発生のピークは 8 月中旬の予想です。 主要地域の発生数も昨年と同程度の発生回数となり、大阪府の発生回数は 450 回前後とみています。西日本で一番多いのは鹿児島県で 3,200 回前後の予想です。 6 月 27 日に梅雨明けをした西日本は、6 月終わりにから本格的なゲリラ雷雨の季節になります。7 月、8 月は高気圧に覆われて雨雲の発達が抑えられる日もありますが、気温が平年よりも高く、暖かく湿った空気や上空の寒気の影響を受けて大気の状態が不安定になる見込みです。特に 8 月中旬は高気圧が勢力を弱めるため、お盆時期は天気の急変に十分ご注意ください。9 月も湿った空気などの影響で中旬に再びゲリラ雷雨が発生しやすくなります。ただ、徐々に低気圧や前線の影響を受ける日が増えて、ゲリラ雷雨というよりも広域の雨となる日が増える予想です。	

◆都道府県別のゲリラ雷雨傾向

都道府県	2025 年				2024 年 (回)	過去 5 年平均 (回)
	発生回数 (回)	10km 四方ごとの 発生回数(回)	2024 年比 (倍)	過去 5 年平均比 (倍)		
北海道	5820	7	1.0	0.9	5674	6630
青森県	1040	10	0.9	0.9	1180	1160
秋田県	1650	13	0.9	0.9	1816	1850
岩手県	2290	15	0.9	1.0	2430	2220
山形県	1550	17	0.9	1.0	1727	1570
宮城県	1200	16	0.8	1.0	1446	1180
福島県	3090	22	0.8	1.0	3813	3000
茨城県	1390	23	1.1	1.4	1257	980
栃木県	1870	29	0.9	1.1	2108	1630
群馬県	2030	33	1.0	1.3	2000	1530
千葉県	1060	20	1.0	1.1	1019	960
東京都	1120	63	1.1	1.0	1049	1110
埼玉県	850	24	1.0	1.3	891	660
神奈川県	560	23	1.0	1.1	579	490
山梨県	1080	24	0.9	1.3	1140	830
長野県	3110	24	1.0	1.1	3105	2820
静岡県	2000	25	1.0	1.1	2029	1840
愛知県	1540	30	1.1	1.1	1406	1400
岐阜県	2850	28	1.1	1.0	2659	2720
三重県	1720	29	1.1	1.1	1519	1540
新潟県	2690	20	1.0	1.1	2667	2460
富山県	1110	26	1.1	1.1	1033	990
石川県	950	22	1.0	1.0	907	930
福井県	980	24	1.1	1.1	887	920
滋賀県	870	22	1.0	1.0	859	860
京都府	1140	25	1.0	1.0	1144	1140
奈良県	1180	34	1.0	1.1	1151	1120
兵庫県	1780	21	1.1	1.0	1651	1720
大阪府	440	23	1.2	1.0	376	440
和歌山県	1120	24	1.1	1.0	1060	1160
鳥取県	980	15	1.0	1.1	943	920
島根県	1500	43	1.1	1.0	1417	1500
岡山県	1430	20	1.0	1.0	1412	1410
広島県	1860	21	1.2	1.1	1551	1760
山口県	1370	22	1.4	1.0	1011	1370
香川県	410	19	1.3	1.1	318	390
徳島県	850	21	1.0	1.0	816	830
愛媛県	1370	23	1.2	1.0	1135	1330
高知県	1790	26	1.0	1.0	1796	1740
福岡県	1470	30	1.1	0.9	1361	1550
大分県	1280	21	1.1	1.0	1194	1280
佐賀県	680	29	1.1	1.0	607	670
長崎県	1350	43	1.2	0.8	1110	1590
熊本県	1840	25	1.0	1.0	1839	1900
宮崎県	2070	29	1.1	1.0	1961	2070
鹿児島県	3200	47	1.1	1.1	2927	3030
沖縄県	4740	175	0.7	0.8	6965	5890
全国(合計)	78270	1325	1.0	1.0	78945	77090

※ 本傾向は、ウェザーニューズの長期予報と類似年の過去データを元に、統計的に算出したものです。

※ 発生回数は 7 月 1 日～9 月 30 日の期間で算出しています。